

多核種除去設備等処理水希釈放出設備 及び関連施設等の設置工事の進捗状況について

TEPCO

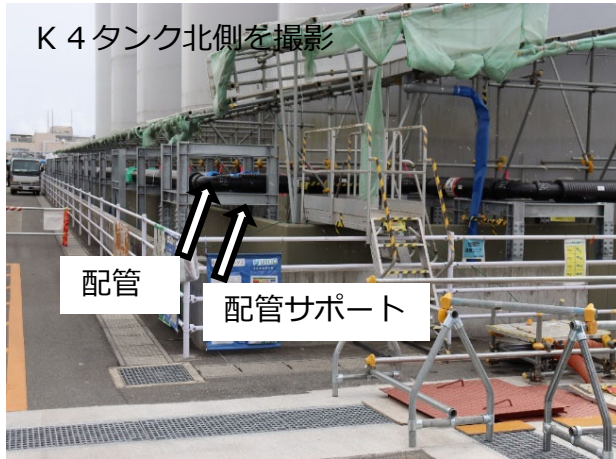
2023年2月22日
東京電力ホールディングス株式会社

1. 工事の実施状況

■ 測定・確認用設備／移送設備

8月4日より、K 4 エリアタンク周辺から、測定・確認用設備、移送設備の配管サポート・配管他の設置工事を開始しています。

1月16日より、使用前検査を開始しています。



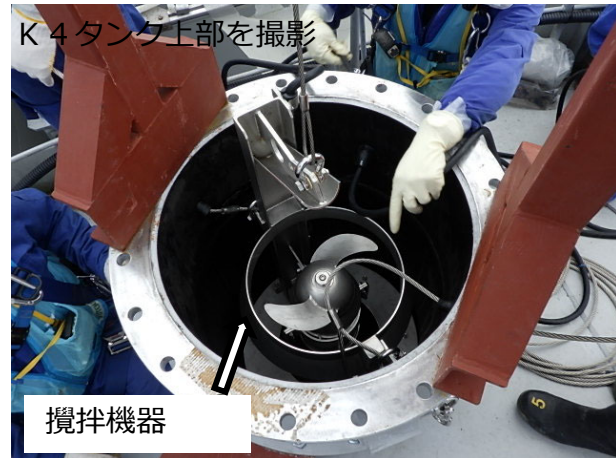
循環配管・サポート設置の状況

配管サポート・配管設置を実施中

【測定・確認用設備】

- ・サポート設備
約540／約540m
- ・配管設備
約1,000／約1,000m
- 【移送設備】
- ・サポート設備
約1,328／約1,500 ※1 m
- ・配管設備
約1,268／約1,500 ※1 m

※1 記載見直し
<2/20現在>



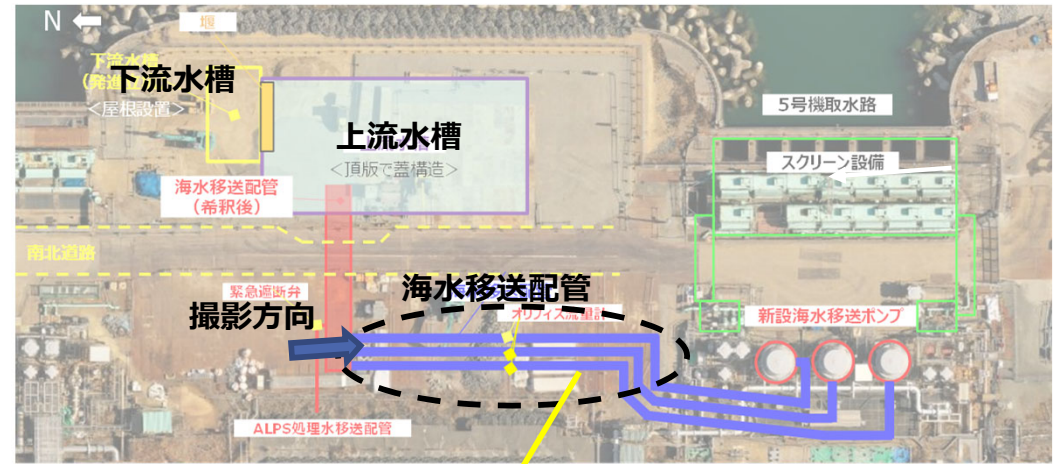
攪拌機器設置の状況

攪拌機器設置を実施中

- 27／30台
(使用前事業者検査完了)
<2/20現在>
- ・今後3台について使用前検査受検予定

■ 希釈設備

海水移送配管の基礎杭打設が完了し、基礎の躯体構築作業を行っています。



海水移送配管基礎の構築状況

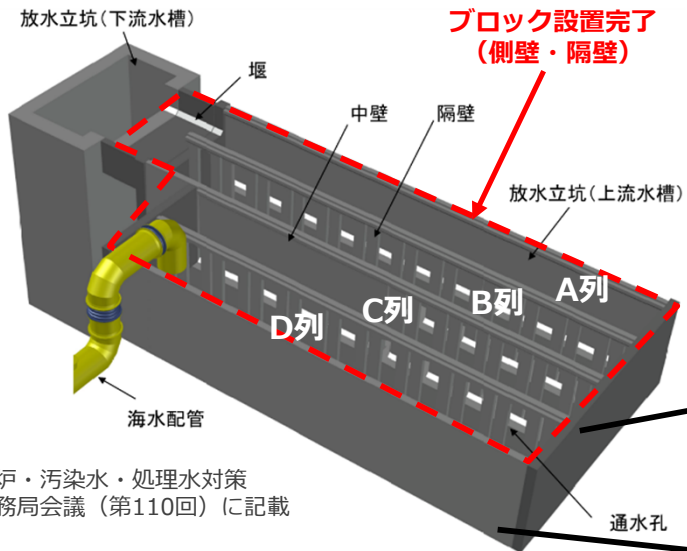
【希釈設備】

- ・配管基礎 基礎構築
1/11基完了
- ・サポート設備
約0／約320m
- ・配管設備
約0／約320m
<2/20現在>

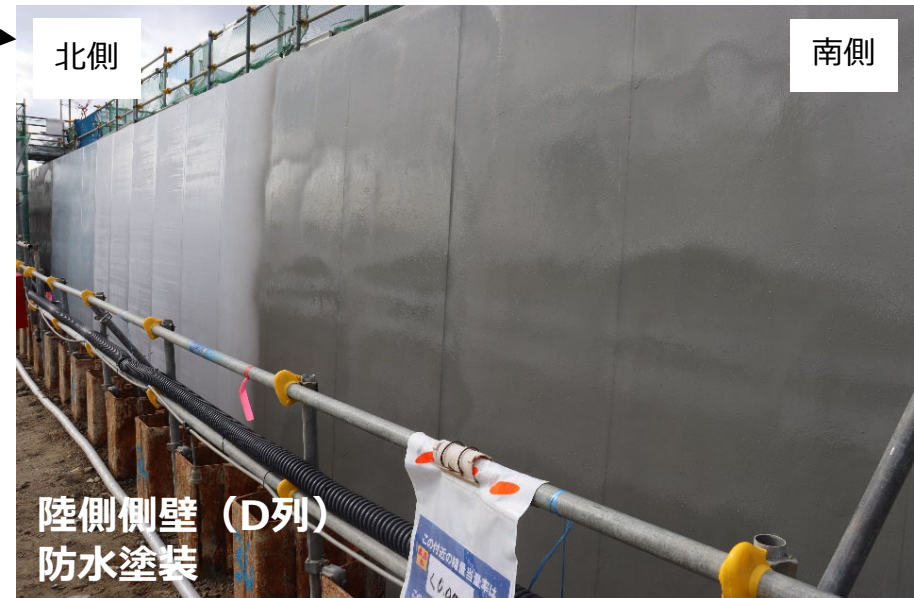
1. 工事の実施状況（続き）

■ 希釈設備：放水立坑（上流水槽）

1月12日より、ブロック（構外製作）の据付組立を開始し、2月9日より底盤部のコンクリート打設を開始しています。



イメージ図は廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議（第110回）に記載



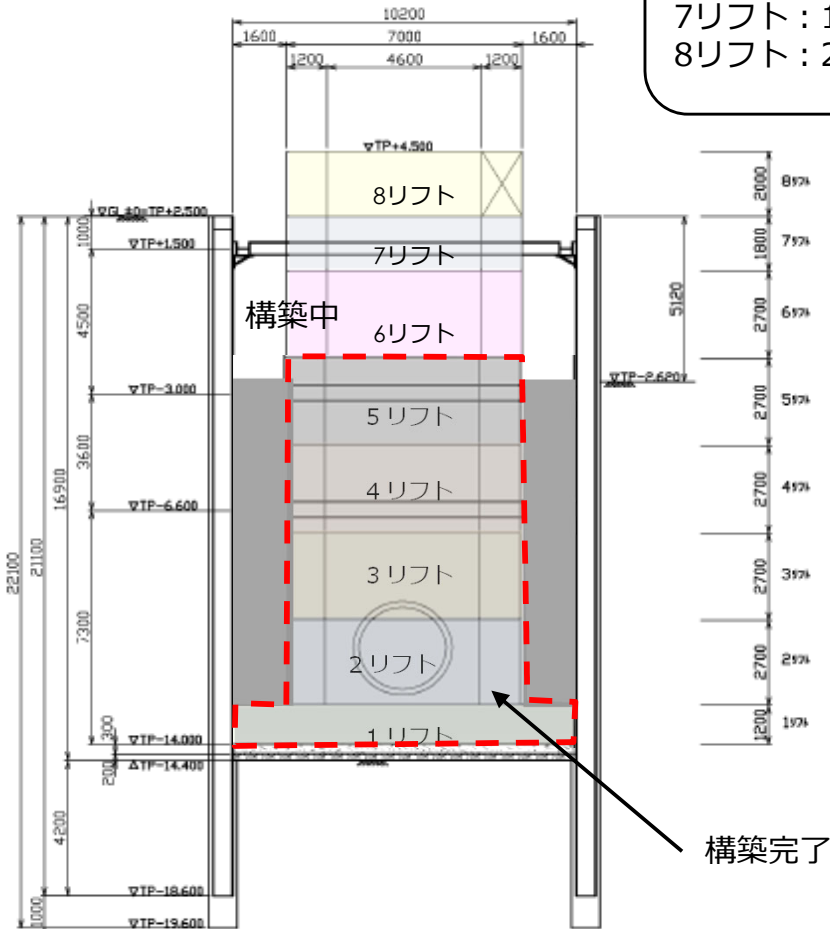
1. 工事の実施状況（続き）

- 放水設備：放水立坑（下流水槽）
12月18日より、躯体構築を開始しています。

【放水設備】

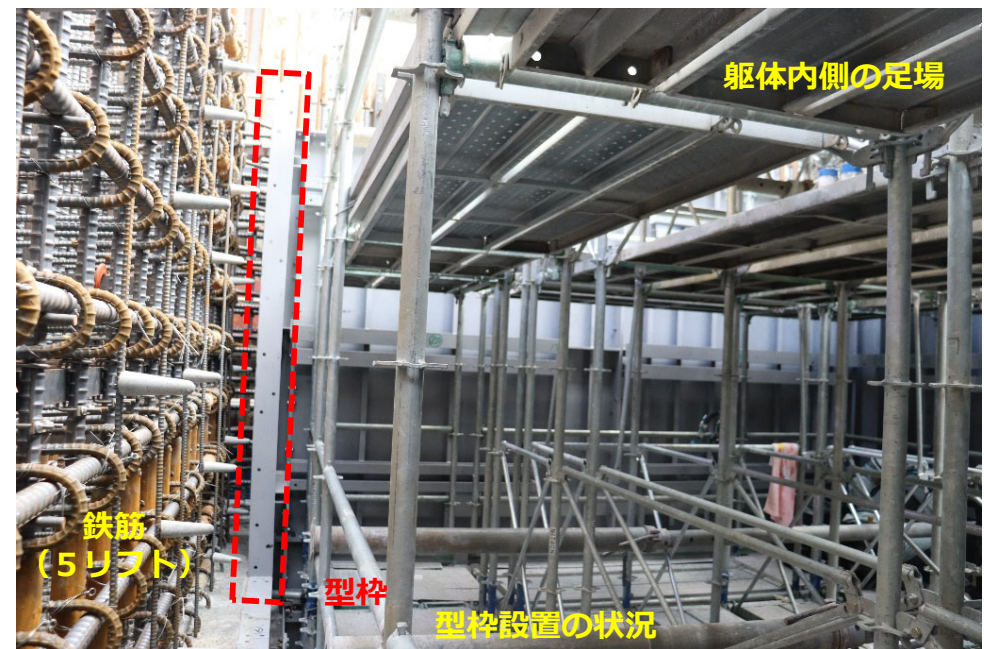
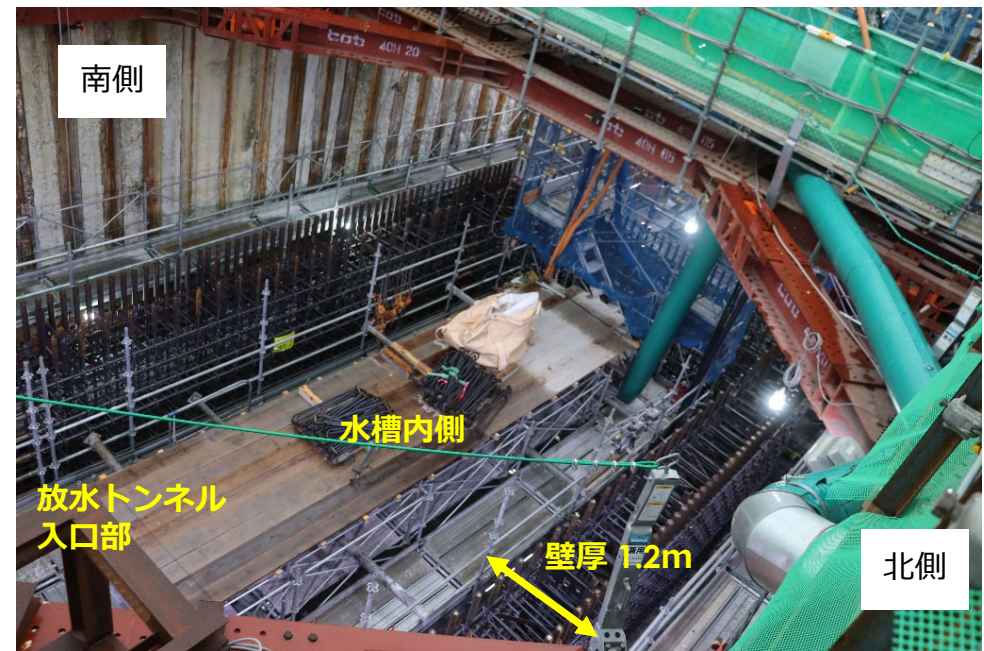
- ・下流水槽：躯体構築
5リフト/8リフト 完了
<2/20現在>

打設高
1リフト：1.2m
2～6リフト：2.7m
7リフト：1.8m
8リフト：2.0m



構築完了

スラリー埋戻し 完了
(貧配合コンクリート)



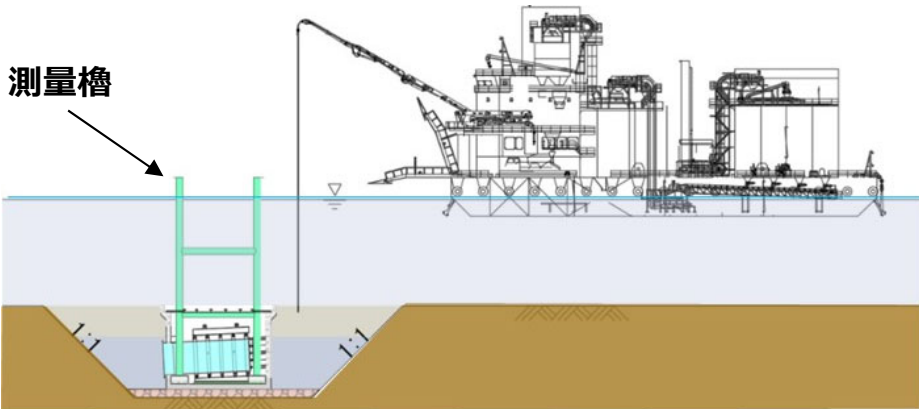
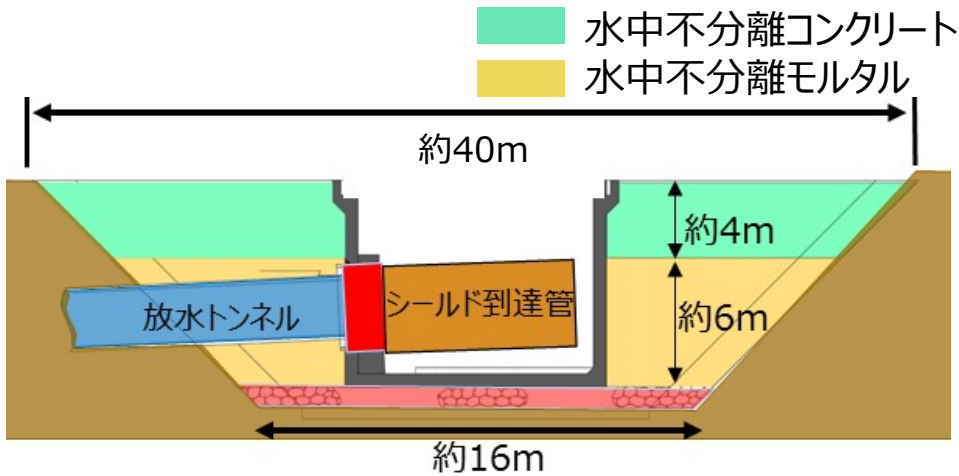
型枠設置の状況

1. 工事の実施状況（続き）

■ 放水設備：放水口ケーソン

放水口ケーソンの周囲に、コンクリートプラント船から水中不分離モルタル、水中不分離コンクリートを打設して、埋戻します。12月8日より作業を開始し、水中不分離モルタルの打設が1月7日、水中不分離コンクリートの打設が2月7日に完了しています。その後、深浅測量と潜水調査の結果を踏まえ、2月14日に埋戻し完了と判断しました。

今後、準備が整い次第、ケーソンに備え付けている仮設の測量櫓（左下図参照）の撤去、シールドマシンの到達後に到達管（左上図参照）の撤去を行う予定です。



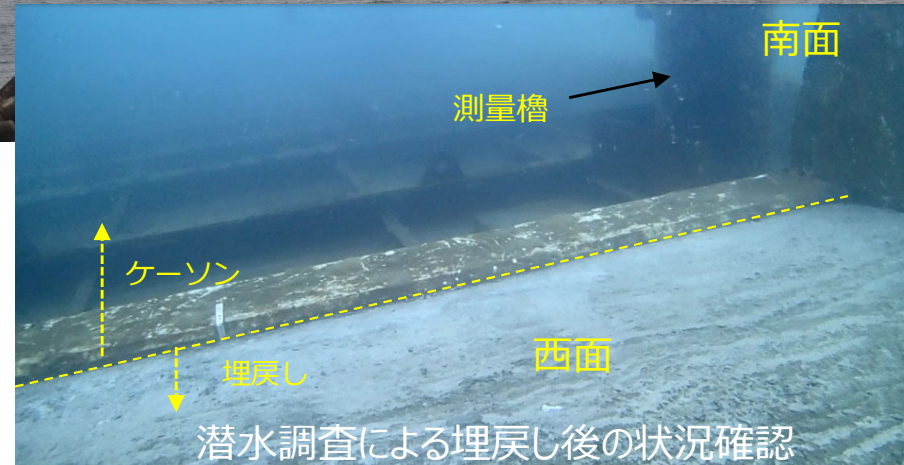
埋戻し断面イメージ図

イメージ図は、ALPS処理水審査会合（第12回）資料1-1に記載

埋戻し（最終回）の状況

【放水設備】

- ・放水口ケーソン：埋戻し
約5,400m³/約5,400m³ 完了



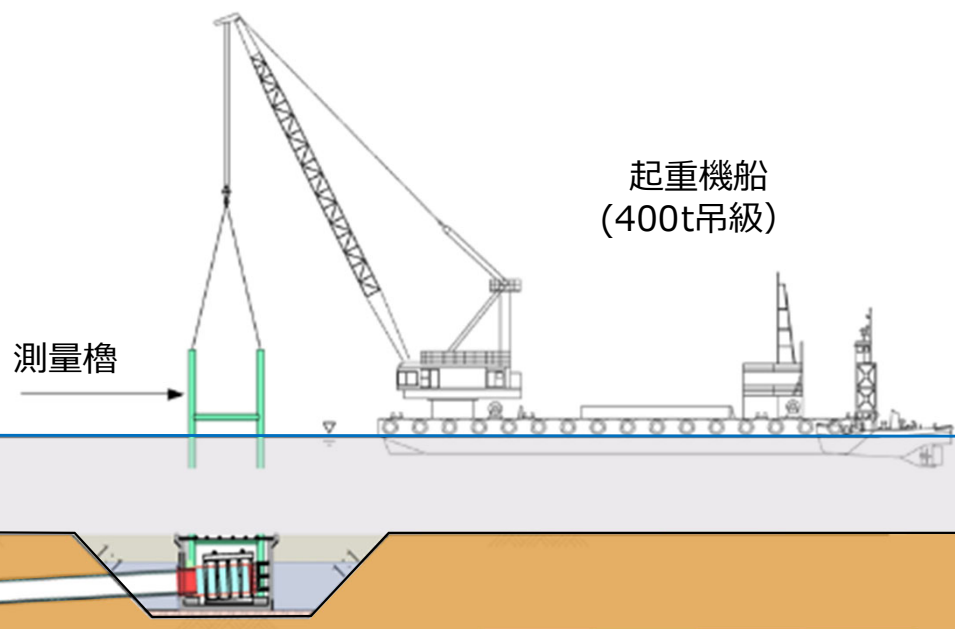
【参考】 測量櫓・シールドマシン（到達管） 撤去

■ 測量櫓撤去

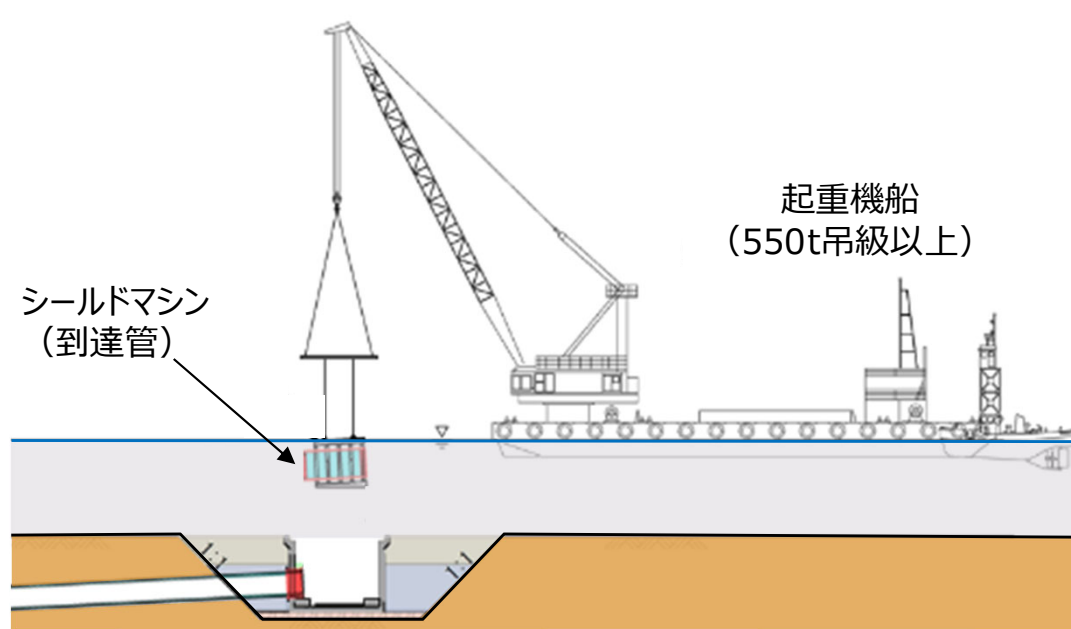
- ケーソン設置位置が固定した後、起重機船にて測量櫓を撤去します。

■ シールドマシン（到達管）撤去

- シールドマシンが到達管に到達した後、到達管に備え付けられた注水バルブを操作し、トンネル内に海水を注水します。
- トンネル内が海水で満たされたことを確認し、到達管と放水口ケーソン接続部を切り離した後、起重機船にてシールドマシン（到達管）を撤去します。



測量櫓撤去作業イメージ図

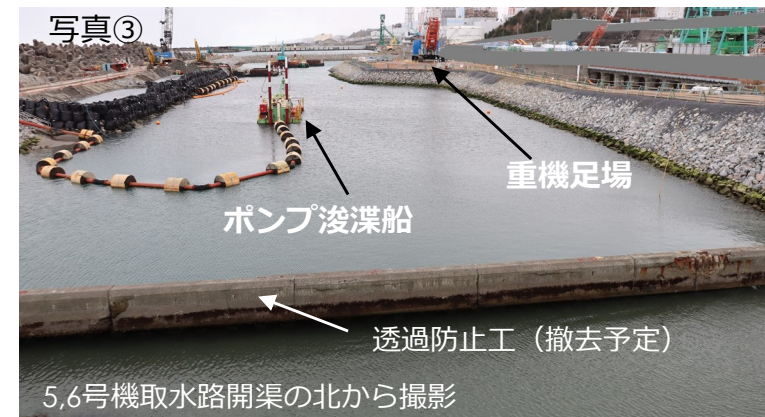
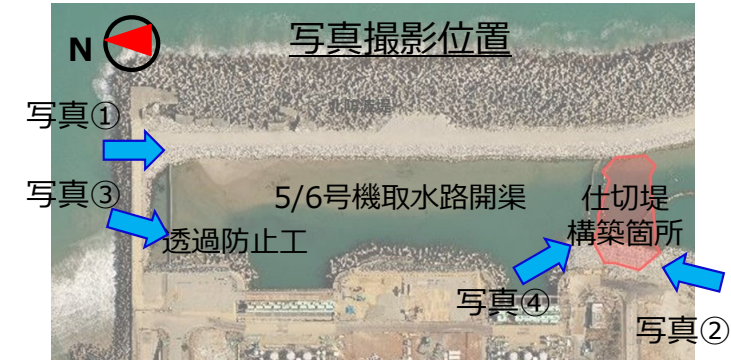


シールドマシン（到達管）撤去作業イメージ図

1. 工事の実施状況（続き）

■ その他（仕切堤の構築他）

5,6号海側工事エリアでは、重機足場の造成が12月29日に完了し、1月5日より主に上流水槽構築用の重機足場として活用しています。取水路開渠内の堆砂の撤去（浚渫）および仕切堤の構築を並行して行うとともに、仕切堤構築後には透過防止工の撤去を予定しています。



5・6号機海側工事エリアの状況

(参考) 放水口ケーソン据付等作業期間中の海水モニタリング結果

➤ 実施概要

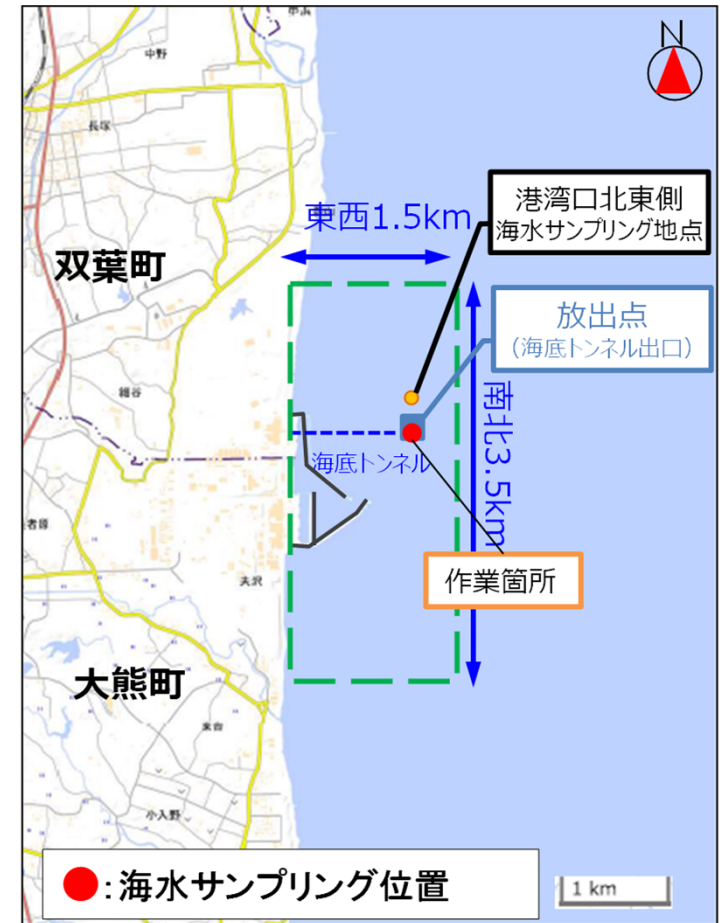
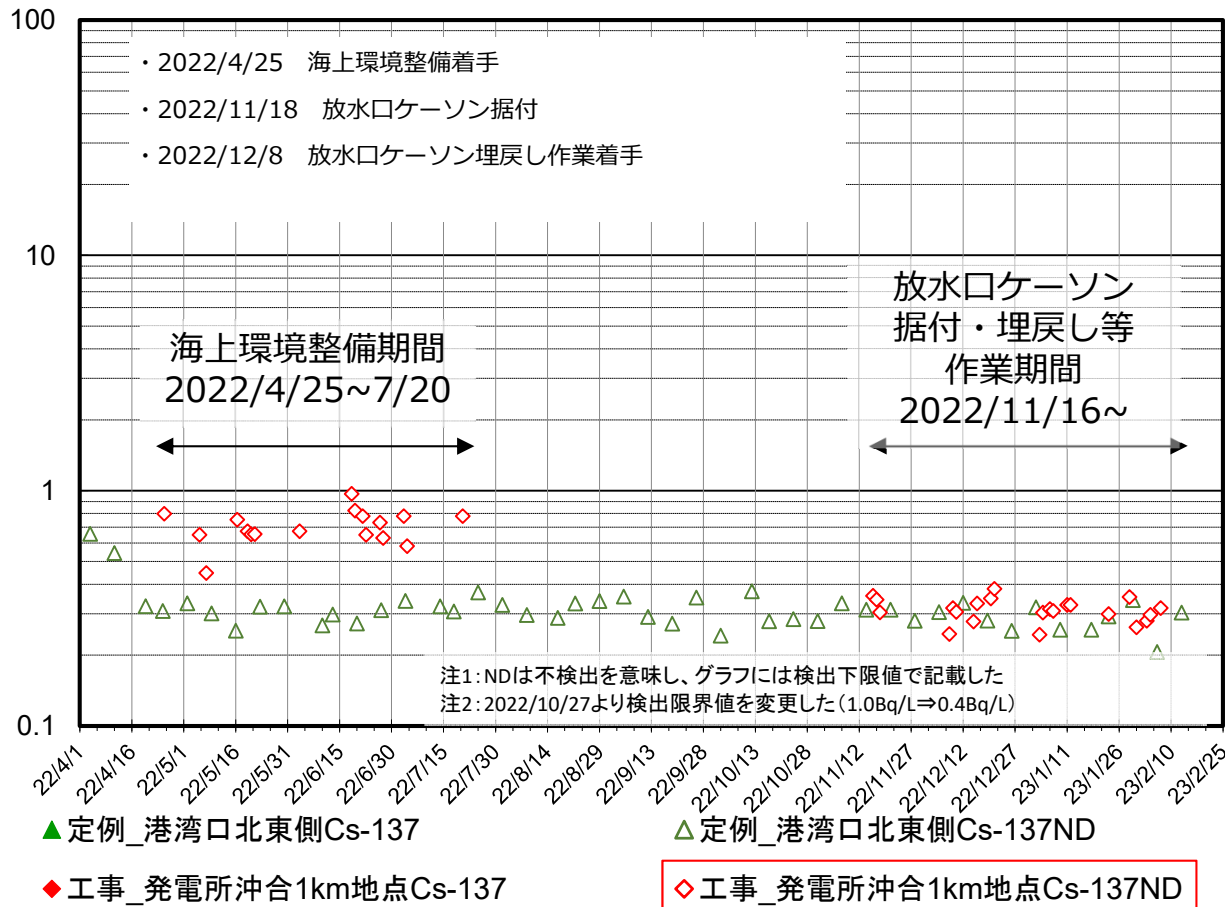
海上工事のうち、放水口ケーソン据付等作業※1において、作業中に海水サンプリングを行い、作業による海水中セシウム濃度の上昇がないことを確認しました。

➤ 結果

※1 放水口ケーソン据付作業、放水口ケーソン据付前の海底部土砂移動作業

2023年2月16日までのモニタリング結果は、全て不検出（ND）であり、海水のセシウム濃度に有意な変動は確認されていません。引き続き、発電所沖合海上工事作業中の海水モニタリングを適切に行ってまいります。

(Bq/L) 工事中の海水モニタリング結果 (Cs-137濃度)



日常的に漁業が行われていないエリア ※
東西1.5km 南北3.5km
※共同漁業権非設定区域

(参考) 放水口ケーソン据付等作業期間中の濁度測定結果

➤ 実施概要

海上工事のうち、放水口ケーソン据付等作業※1において、工事区域境界（4か所）にて濁度計による測定を行い、作業により工事区域外に濁りの拡散がないことを確認しました。

➤ 結果

※1 放水口ケーソン据付作業、放水口ケーソン据付前の海底部土砂移動作業

2023年2月16日までの濁度測定結果は全て管理値※2未満であり、また目視による濁度確認の結果からも、作業に伴う工事区域外への濁りの拡散は確認されませんでした。引き続き、発電所沖合海上工事中の濁度測定を適切に行ってまいります。

※2 管理値

濁度をSS（浮遊物質量、mg/L）に換算し、SSがBG値（作業前の測定値）+10mg/Lを超えないことを確認します。

作業日 (測定日)	濁度測定結果			
	A	B	C	D
2023/1/6	○ (2.1)	○ (2.2)	○ (2.4)	○ (2.0)
2023/1/7	○ (1.8)	○ (1.7)	○ (1.8)	○ (1.5)
2023/1/11	○ (2.2)	○ (1.6)	○ (1.6)	○ (1.5)
2023/1/12	○ (2.3)	○ (4.4)	○ (2.8)	○ (2.7)
2023/1/23	○ (2.9)	○ (4.1)	○ (1.8)	○ (2.4)
2023/1/29	○ (2.5)	○ (1.5)	○ (1.5)	○ (1.6)
2023/1/31	○ (2.3)	○ (2.1)	○ (1.5)	○ (1.5)
2023/2/3	○ (1.7)	○ (1.5)	○ (1.8)	○ (1.6)
2023/2/4	○ (1.8)	○ (1.6)	○ (1.5)	○ (1.5)
2023/2/7	○ (2.2)	○ (2.1)	○ (1.5)	○ (1.5)

判定：管理値未満○、管理値以上×

※至近10日分の結果を示す。過去の結果においても管理値未満を確認している。



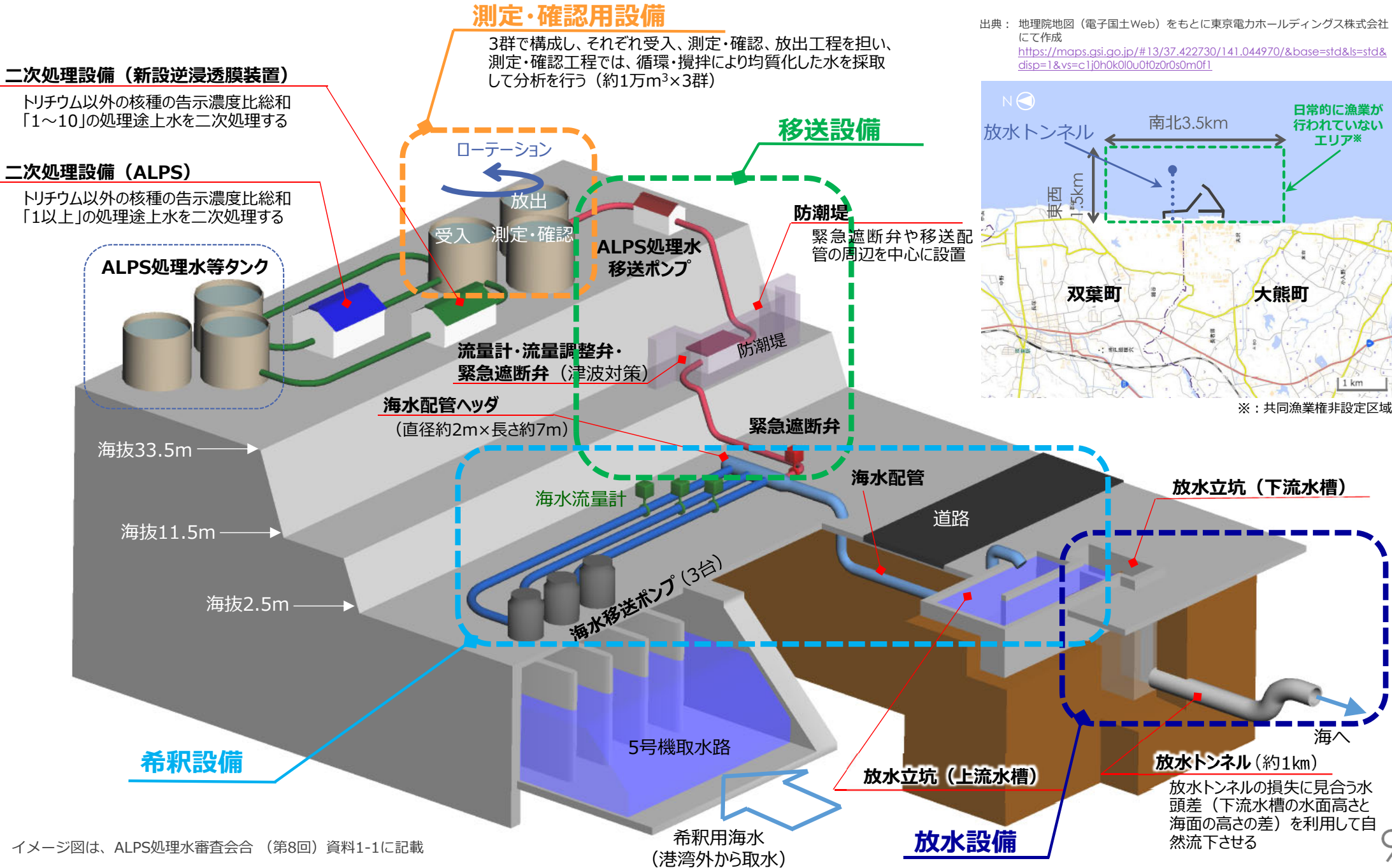
(参考) ALPS処理水希釈放出設備および関連施設の全体像



出典：地理院地図（電子国土Web）をもとに東京電力ホールディングス株式会社にて作成
<https://maps.gsi.go.jp/#13/37.422730/141.044970/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1i0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

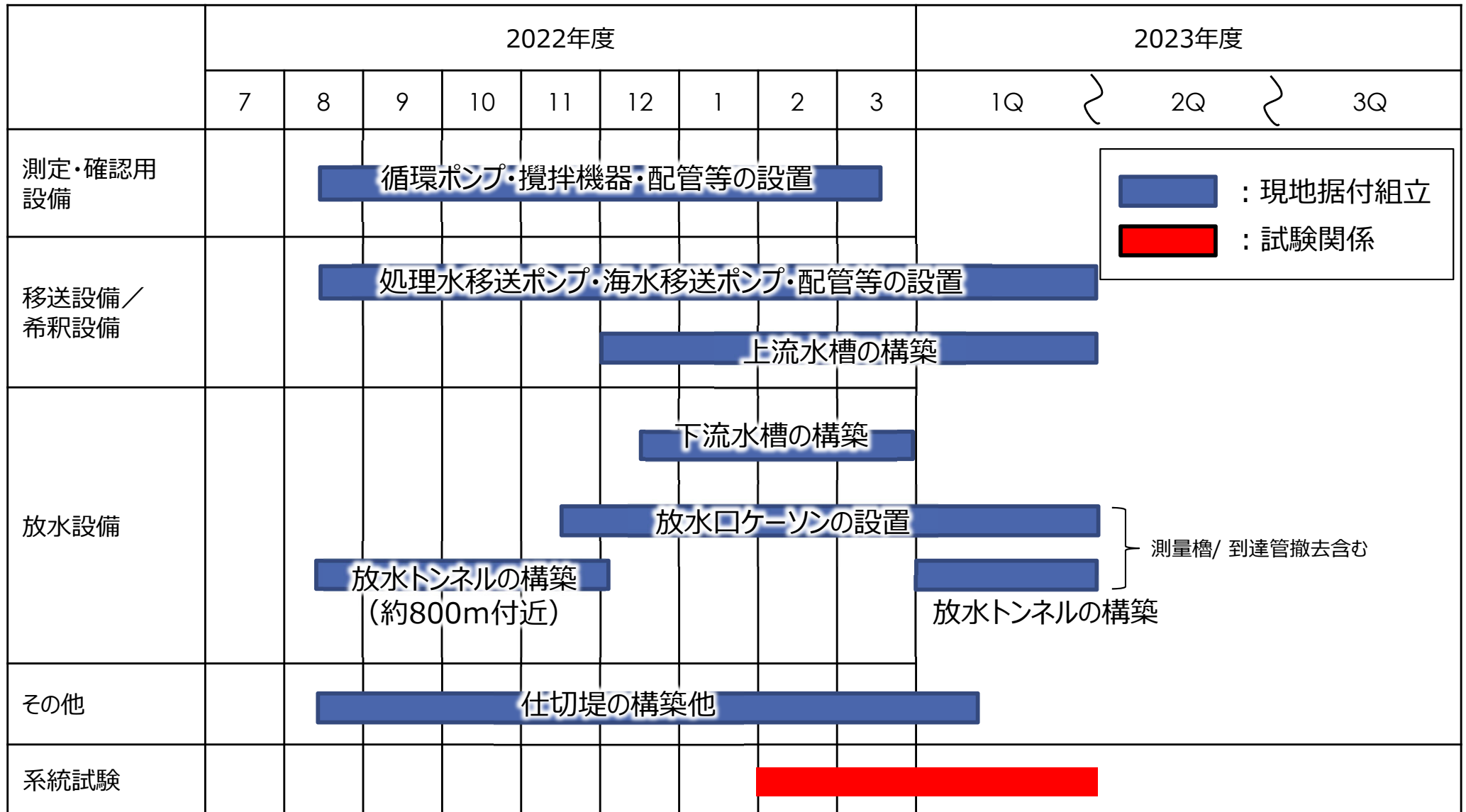


※：共同漁業権非設定区域



(参考) 全体工程

廃炉・汚染水・処理水対策
 チーム会合/事務局会議 (第108回)
 2022年11月24日



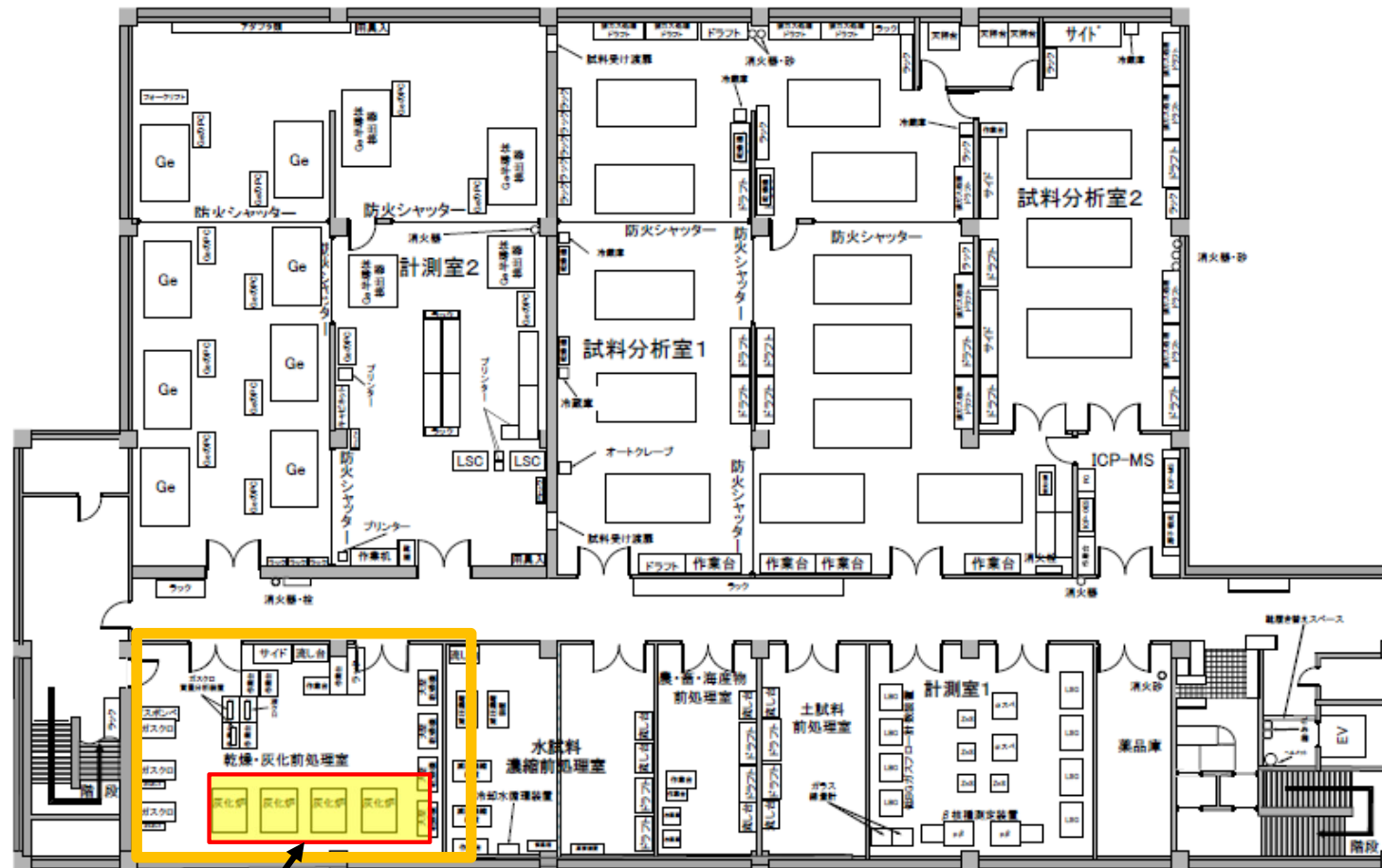
※本工程は、今後の進捗等を踏まえて、見直すことがあります

2. 電解濃縮装置の設置

廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議（第110回）
2023年1月26日

TEPCO

- 化学分析棟内に電解濃縮装置※を設置するため、乾燥・灰化前処理室に設置されていた灰化炉4基を撤去しました。
- 電解濃縮装置は2022年12月に8台納入が完了しており、濃縮試験を実施後、年度内の運用開始を予定しています。



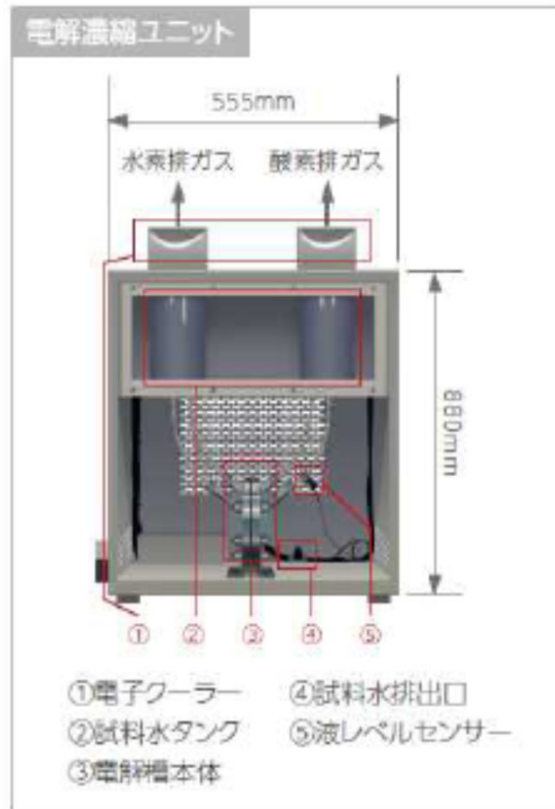
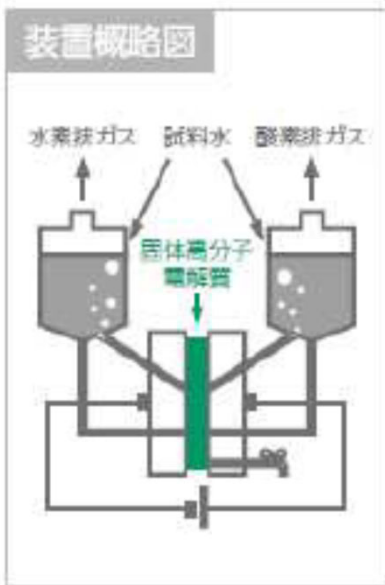
電解濃縮装置
設置予定箇所

化学分析棟 B1F

※ 極低濃度のトリチウムを分析
するために用いる前処理装置

2. 電解濃縮装置の設置（続き）

- バックグラウンドレベルの表層海水中のトリチウムを検出するためには、水の電気分解等※によりトリチウムを濃縮したうえで測定する必要があります。
- 電気分解等の実施により、分析日数は1カ月～1.5カ月程度長くなりますが、検出下限値を下げて測定することが可能です。
- 福島第一原子力発電所でのトリチウム分析（海生物における自由水トリチウム分析）においても、今後導入を予定しています。



（※）電気分解による濃縮について

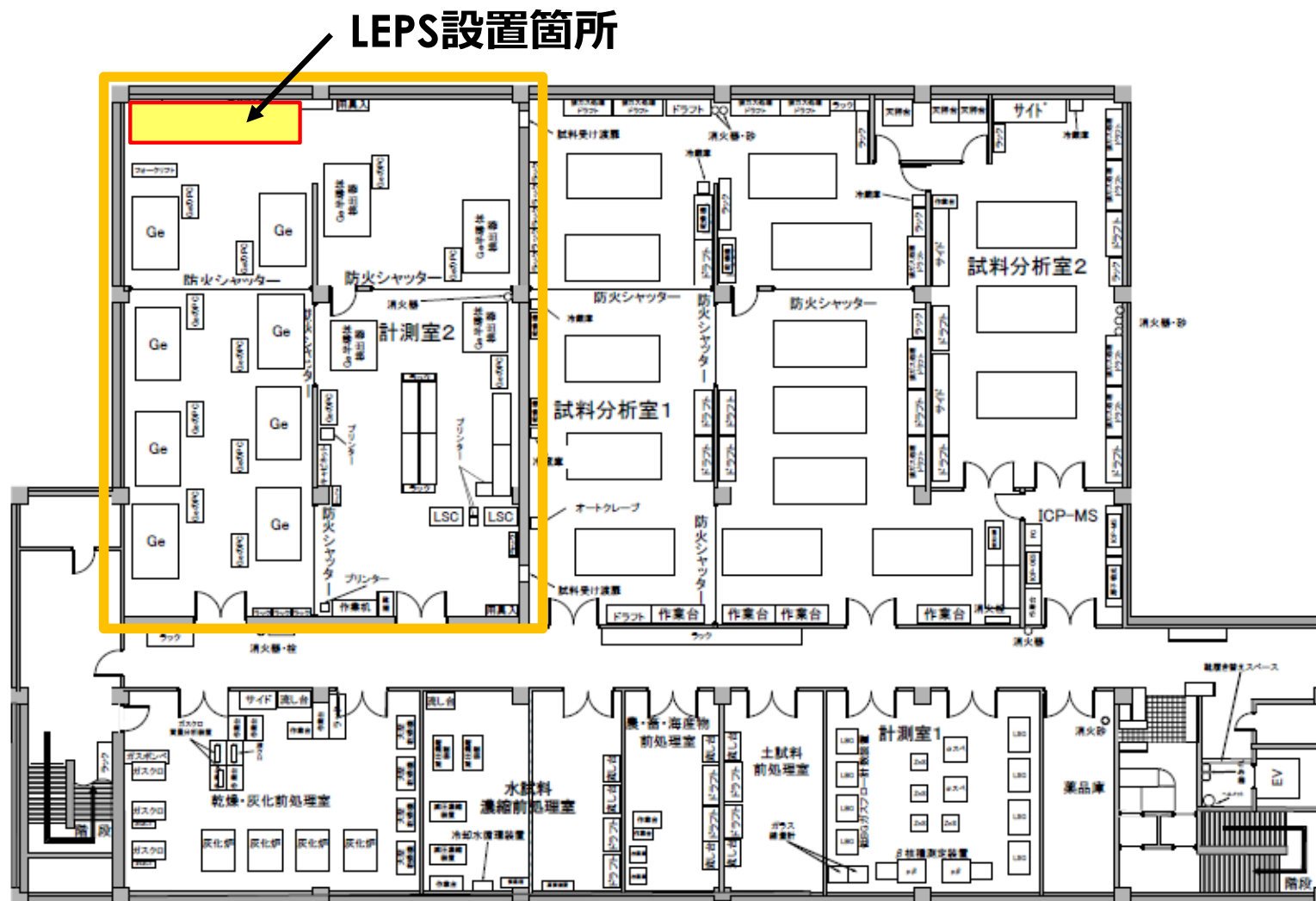
試料水を電気分解すると、水素ガスと酸素ガスが発生しますが、水素ガスになる際の反応速度は ${}^1\text{H} > {}^2\text{H} > {}^3\text{H}$ （トリチウム）であり、**トリチウム水は電気分解されにくい**という性質があります。この性質を利用し電気分解によってトリチウムを濃縮します。

【仕様】

- 約60時間で1,000mLの蒸留した試料水を50mLに濃縮することが可能
- 電解生成物として水素と酸素が分離発生する

3. 低エネルギー光子用ゲルマニウム半導体検出器（LEPS）の設置

- 化学分析棟の計測室内に、低エネルギー光子用ゲルマニウム半導体検出器（LEPS）を設置します。2022年12月に2台設置が完了しており、検証試験を実施後、年度内の運用開始を予定しています。

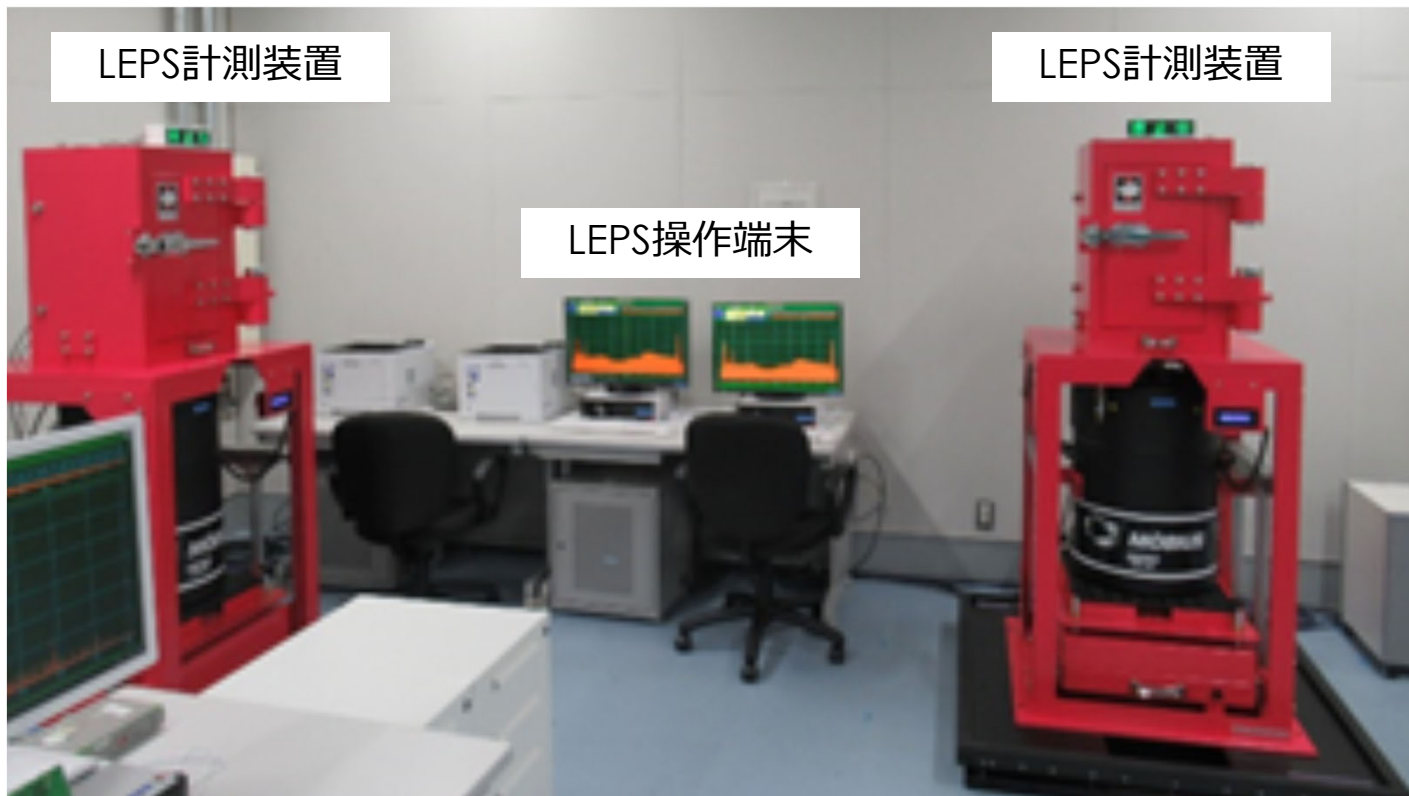


化学分析棟 B1F

3. 低エネルギー光子用ゲルマニウム半導体検出器（LEPS）の設置 （続き）

廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議（第110回）
2023年1月26日

- ALPS処理水の分析においては、Fe-55, Nb-93m, Mo-93等の低エネルギーの放射線を放出する核種分析も必要になります。
- これらの核種分析は、1Fに設置しているゲルマニウム半導体検出器では測定できないため、低エネルギー光子用ゲルマニウム半導体検出器（LEPS）を新規に導入します。



LEPS設置状況
(化学分析棟計測室内)



参考：既設ゲルマニウム半導体検出器
(写真は化学分析棟計測室内の装置)